2023年度事業報告書
（2023年4月1日～2024年3月31日）

当事業年度における国内経済は新型コロナウイルス感染症（COVID-19）が季節性インフルエンザと同じ5類に移行したことに伴い、対面での企業活動が復活しつつある。一方、ロシアのウクライナ侵攻の長期化と新たにイスラエル、パレスチナ紛争などが企業活動や消費活動に大きな影響を及ぼし、国内景気は依然不透明な状況が続いている。翻訳・通訳業界においては、翻訳需要は堅調に推移する一方で、引き続き顧客からの品質・価格・納期への要求の高まり、業界内での競争激化、大規模言語モデル（LLM）に基づくChatGPTに代表される新しいイノベーションの利活用の進展など、翻訳・通訳業界を取り巻く環境は一段と大きく変化してきている。このような環境の中で、改めて、当連盟が翻訳・通訳業界の中核的役割を果たす組織であることを自覚し、関連諸団体との提携、協力関係を強化しながら、引き続き翻訳・通訳業界の認知度を高め、社会的な地位向上と持続可能な発展と健全化に努めた。また、会員のための業界団体として、JTF公式Webサイト、JTFジャーナルWeb版を活用した情報発信など、より一層の会員サービスの向上を図るため、昨年度同様に以下の5項目を重点施策として推進した。

（１）セミナー開催方法のオンライン化による会員サービスの拡充と入会促進
（２）委員会体制の強化とWebサイトのリニューアルによる事務局業務の効率化
（３）ほんやく検定に関する組織強化と実施方法に関する検討
（４）機械翻訳・支援ツール等に関する調査・研究
（５）国内外関連団体との提携・協力関係の強化

以上の活動を通じて当連盟の各事業内容を拡充させ、一定の成果を挙げることができた。様々な場面における入会勧誘活動により会員数は前年比18件増と伸ばすことができた。事業活動収入については、4年ぶりの現地開催となった第32回JTF翻訳祭2023の参加人数が986名となり、その後の交流パーティーも好評であった。なお本イベントに先立ち、「翻訳の日」を記念した4団体トップによるパネル討論（日本翻訳者協会（JAT）、日本会議通訳者協会（JACI）、アジア太平洋機械翻訳協会（AAMT））を開催した。数年前に問題となった詐欺まがい翻訳学校と同様の事案があり、4団体の連携により「被害にあわないために」という内容で声明文を出すことができた。次年度の第33回JTF翻訳祭2024は元日に発生した令和6年能登半島地震の復興支援の一環として、金沢市文化ホールでリアル開催とし、これまでのオンラインの良さも取り入れ、リアルとオンラインを融合したハイブリッドな翻訳祭に決定し、実行委員会で企画が進行中である。翻訳セミナーについては全4回開催し、多くの会員、非会員の方々に参加していただいた。ほんやく検定については受験者総数が734名であり、前年度比でおよそ26.1%アップとなった。

■1.翻訳事業に関する調査及び研究（定款第４条第１号関係）
①業界調査委員会
【実施実績】
2023年度翻訳通訳白書のマーケティングプランとして、以下のような販売・広報活動を実施した。
(1)AmazonにてPOD（プリント・オン・デマンド）サービスによる販売
(2)JTF会員・非会員・過去の購入者へメーリングリストによる告知活動
(3)JTFホームページおよびJTF公式SNS(X（旧Twitter）、Facebook、Instagram)を利用した広報活動
(4)関連団体の協力による広報活動
結果、Amazonでの販売実績は5冊となった。

【評価】
例年の販売数が5～10冊であり、今年は少なめの実績となった。
また、「次回調査に向けて調査方法や調査項目など調査デザインの修正要否について協議」を計画していたが、実施できなかった。協力会社の選定し直しも含めた大きな変更を行うか、調査の継続性を重視した小幅変更に留めるかを議論するところからはじめていきたい。

【担当】
業界調査委員会
委員長：二宮俊一郎（JTF理事）
委員：安達久博（JTF 会長）、小泉志保（JTF 理事）、中野真紀（JTF 理事）、原真理恵（JTF理事）、筆谷信昭（日本映像翻訳アカデミー株式会社）、室田陽子（JTF理事）

②翻訳品質委員会
【実施実績】
活動実績は特に残せなかった。

【評価】
2023年度の事業計画では以下のような活動を計画していた。
A)公開資料の維持管理および活用
B)公開資料の告知と広報
C)ほんやく検定との連携
このうちAとBについては、特に活動実績は残せていない。『JTF日本語標準スタイルガイド』については、参考資料として引用されるケースが着実に増えている。当委員会として活動は残せていないながら、JTFスタイルガイドの浸透は進んでいると考えられる。
Cについては、引き続き、委員長・高橋がほんやく検定委員会にも参加しており、そのなかでMT利用をどう扱うかという問題は継続的に真がされている。そこに加えて、昨年からは生成AIの問題も加わったため、当委員会としては、MTや生成AIの発展もふまえて翻訳品質を考えていく必要がある。

【担当】
翻訳品質委員会
委員長：高橋聡（JTF副会長）
副委員長：東尚子（個人翻訳者）
委員：駒宮俊友（個人翻訳者）、田嶌奈々（株式会社翻訳センター）、舟津由美子（個人翻訳者）

③用語バンク委員会
【実施実績】

活動実績は特に残せなかった。

【評価】
コロナ禍も落ち着きをみせてきており、行動制限の緩和が期待できるため、昨年度は十分に活動できなかった用語バンクを実現するために、産学官の様々な立場の方々に構想の趣旨をご理解いただき、ご支援をいただく必要がある。Web で公開した資料を基に、業界関係者、関係機関への働きかけを促す活動を引き続き実施してゆく計画であったが、大規模言語モデル（LLM）に基づく生成 AI という新しいイノベーションの登場により、産官学の関係者の関心がそちらに向いており、訴求活動が難しかった。なお、委員会の主要メンバーは今年度で退任することとなり、本委員会も今期で終了することとした。

【担当】
用語バンク委員会
委員長：安達久博（JTF 会長）
副委員長：森口功造（JTF 専務理事）
委員：隅田英一郎（JTF 理事）、高橋聡（JTF 副会長）

■2. 翻訳事業に関する研修会及び講演会等の開催（定款第 4 条第 2 号関係）
①セミナー委員会
【実施実績】
セミナーの開催

回数	日時	テーマ	JTF	翻訳学校	一般	学生	プレミア	合計
1	7 月 6 日	新しい翻訳英文法：AI 翻訳時代を生き延びるために 水野 的（MITIS（水野翻訳通訳研究所）所長）	100	7	64	0	0	171
2	9 月 14 日	翻訳校閲講座「日本語ライティングスキルを鍛えよう！」 久松 紀子（翻訳校閲者・校閲者／英語教材執筆者・校閲者）	111	8	66	2	1	188
3	2 月 20 日	トランスクリエーション：AI 時代の共感のデザイン 小塚 泰彦（株式会社 morph transcreation 代表取締役社長）	31	0	20	0	3	54
4	3 月 14 日	医療情報の読み解き方ー"ダイエット薬"の診療報道の背景を探るー 西村 多寿子（株式会社ことのはラーニング代表取締役）	18	2	7	1	0	28
合計人数			260	17	157	3	4	441

【評価】
今期は 7 月以降、3 月までの期間で全 4 回のセミナーを実施した。前半の 2 回は、7 月「新しい翻訳英文法：AI 翻訳時代を生き延びるために」と題して水野的様に講演いただき、JTF 会員のみならず、一般参加者にも数多く集まっていただいた。9 月には翻訳校閲講座「日本語ライティングスキルを鍛えよう！」と題して久松紀子様に講演いただき、法人会員・個人会員のみならず、多くの一般参加者にも参加いただいた。
一方後半の 2 回は、専門特化した分野を中心に、2 月には、「トランスクリエーション：AI 時代の共感のデザイン」と題して小塚康彦様に大変興味深い話をしていただいた。また 3 月には、「医療情報の読み解き方ー“ダイエット薬”の診療報道の背景を探る」と題して、西村多寿子様に最新の医療テーマを題材に、大変興味深いセミナーを実施いただいた。
各セミナーによっては、参加者数に大きくバラツキがあったものの、いずれのセミナーに

ついても、JTF が扱うものとして、その内容に相応しい質の高いものとなった。

【担当】
JTF セミナー委員会
委員長：村下理事（JTF 理事）
副委員長：石岡映子（JTF 常務理事）
委員：安藤惣吉（JTF 常務理事）、木村仁美（アイ・ディー・エー株式会社）、小泉志保（JTF 理事）、冨田剛介（株式会社コングレ・グローバルコミュニケーションズ）、中野真紀（JTF 理事）、由良恭平（アイ・ディー・エー株式会社）

②翻訳祭実行委員会
【実施実績】
新型コロナウイルス感染症の影響でこれまでオンライン開催を余儀なくされたが、4 年ぶりのリアル開催が実現できた。またオンラインの良さも取り入れ、会場開催、オンライン開催、アーカイブ配信とこれまでにない充実した開催方法となった。テーマは「どうする⁉ 翻訳通訳業界」とし、グローバル化や MT（機械翻訳）の急速な進化、AI 時代の新しい波に対して、「翻訳者、通訳者、翻訳通訳会社、翻訳通訳に関わる企業」がともに議論していく場として、さまざまな講演やセミナーを行うことができた。
これもひとえに実行委員の方々のアイディアと情熱の賜物であり、この場を借りて感謝申し上げたい。

【評価】
リアル配信の映像においては、音声の途切れなど不具合が多かった。次回はリアル配信でなく、録画で対応することも検討課題としたい。立地については、東京駅の目の前ということで、これ以上にない便利さはあったが、ホテルなどのホールと違ってきめ細かい対応を必ずしもしてくれるものではなかったため、説明不足等で追加の費用等が発生などした。しかし全体的には黒字で終えることができた。これも多くのスポンサー様のお陰であり、感謝申し上げたい。

【担当】
大会組織委員会
大会組織委員長：森口功造(JTF 専務理事)、副委員長：村下義男（JTF 理事）、委員：石川弘美（JTF 理事）、二宮俊一郎（JTF 理事）、松元洋一（JTF 理事）
実行委員会
実行本部
実行委員長：松元洋一（JTF 理事）、実行副委員長：中野真紀（JTF 理事）、プログラム委員長：成田崇宏（株式会社ホンヤク社）、広報委員長：石川弘美（JTF 理事）、渉外：平野幸治（株式会社メディア総合研究所）、木村仁美（アイ・ディー・エー株式会社）、財務：敦巻千里（株式会社翻訳センター）
実行委員
広報委員：佐々木春香（株式会社アスカコーポレーション）、松本佳月（翻訳者）、マハウォンウィリヤ スタシニー（株式会社アミット）
プログラム委員：安藤惣吉（JTF 常務理事）、安間幸成（ヤマハ株式会社）、岩下雅寛（TOPPAN 株式会社）、小野愛美（株式会社ホンヤク社）、酒井秀介（翻訳者コミュニティ「カセツウ」）、塩崎理恵（株式会社アビリティ・インタービジネス・ソリューションズ）、高橋聡（JTF 副会長）、谷順一郎（株式会社オレンジ社）、西墻慎一（翻訳者）、舟津由美子（翻訳者）、古河師武（株式会社インターブックス）、松浦悦子（翻訳者）、宮本伸也（JTF 監事）、由良恭平（アイ・ディー・エー株式会社）、李東偉（JTF 理事）

■3. 翻訳事業に関する人材育成及び資格能力審査の実施（定款第 4 条第 3 号関係）
■2023 年度事業報告
【実施実績】
①「JTF ほんやく検定」の実施
第 79 回を 2023 年 7 月、第 80 回を 2024 年 1 月に以下の通り実施した。
・第 79 回：2023 年 7 月 22 日（土）受験者 394 数名
・第 80 回：2024 年 1 月 27 日（土）受験者 340 数名 合計 734 名（前年度 582 名）
受験方法：インターネット受験
科目：（基礎レベル）5 級／4 級 （実用レベル）英日翻訳／日英翻訳
実用レベル選択分野：（1）政経・社会、（2）科学技術、（3）金融・証券、（4）医学・薬学、（5）情報処理
第 32 回 JTF 翻訳祭 2023［登壇日：2023 年 10 月 27 日］に会場登壇した。その後、会場で録画した動画をオンラインで視聴可能とした。これらを通して JTF ほんやく検定の実施内容と特典、これまでのほんやく検定委員長の氏名と所属を紹介しながら、翻訳検定の歴史を簡単に紹介した。また、NIPTA との特許分野の共同運営を順調に行うために NIPTA 試験員会に積極的に参加し NIPTA と検定運営についての意見交換の場を積極的に持った。さらに、JTF も NIPTA 開催の知的財産翻訳検定を広報面で支援した。

【評価】
受験者総数は 734 名であり、前年度比でおよそ 26.1%アップとなった。事業計画で予定していた 1,000 名に対しては 26.6%ダウンとなった。第 75 回、第 76 回、第 77 回、第 78 回と受験者に上下の変動があるが、この変動の理由が機械翻訳の使用をほんやく検定試験で禁止したことによるかは不明である。JTF 公式 Web サイト「検定合格者リスト」（JTF 会員専用）及び JTF 機関誌(JTF Journal Web 版)に第 76 回、第 77 回の 1・2 級合格者プロフィールを掲載し、JTF 加盟翻訳会社と合格者の仕事マッチングに寄与した。

【担当】
ほんやく検定委員会
委員長：安藤惣吉（JTF 常務理事）
委員：高橋聡（JTF 副会長）、マイアットかおり（JTF 理事）
オブザーバー：室田陽子（JTF 理事）

②「JTF ほんやく検定」問題・解説集の刊行
【刊行実績】
過去問題・解説集の刊行
「JTF ほんやく検定」各回につき実用レベルの全分野・全科目と基礎レベルの問題・訳例・解説で構成される過去問題・解説集を以下の通り刊行した。販売部数は 831 部（前年度 1,075 部）となっている。
第 78 回：2024 年 7 月刊行
【評価】
問題・解説集については、毎回受験者及び購入希望者からの問合せが数多く寄せられている。受験前の傾向と対策及び受験者の復習ツールとして、翻訳力向上のための有益な媒体となっている。

【担当】ほんやく検定委員会
委員長：安藤惣吉（JTF 常務理事）
委員：高橋聡（JTF 副会長）、マイアットかおり（JTF 理事）
オブザーバー：室田陽子（JTF 理事）

■4.翻訳事業に関する情報の収集及び提供（定款第４条第４号関係）

①トラブル防止委員会

【実施実績】

数年前に発生した「詐欺まがいの翻訳学校」と内容が近似している「AI を使うと語学力不問でプロ翻訳者になれる」というような宣伝文句で学習者を集め、高額な授業料を取るというネット上の翻訳学校が昨年あたりから出現し、日本翻訳者協会（JAT）日本会議通訳者協会（JACI）、アジア太平洋機械翻訳協会（AAMT）との 4 団体の連携により「被害にあわないために」という内容で声明文を出すことができた。

【評価】

4 団体の声明文は一定数の効果が出たようで、講座料の返還に成功したものなどや今後の予防的な措置ができた。

【担当】トラブル防止委員会

委員長：松元洋一（JTF 理事）

②組織強化委員会

〇組織強化の推進

【実施実績】

昨年度に引き続き事務局員のリモートワークの継続とＷｅｂサイト、業務シス　テムなどの利活用により事務局業務の効率化を図るとともに、会員向けのサービスを一層強化した。

アジア太平洋機械翻訳協会（AAMT）等と連携し、翻訳精度が向上しつつあるニューラル機械翻訳等の調査、研究、利活用状況などの会員への情報提供を引き続き実施した

【評価】

法人会員、個人会員ともに関心の高い大規模言語モデルとそれに基づく生成 AI という新しいイノベーションについても AAMT からの情報を臨機応変に会員へ周知することができた。特に、翻訳祭での AAMT 理事の講演に参加者の関心が非常に高く、多くの方々の聴講が得られた。

【担当】

組織委員会

委員長：安達久博（JTF 会長）

委員：高橋聡（JTF 副会長）、森口功造（JTF 専務理事）、安藤惣吉（JTF 常務理事）、石岡映子（JTF 常務理事）

〇翻訳・通訳事業の ISO 規格化に向けた取り組み

【実施実績】

翻訳部会では、ISO5060（翻訳品質評価）が発行された。また、ISO18587:2017 は定期レビューにおいて見直しをすることが決定されたため、今後の検討部会に参加をする。昨年度は、4 年ぶりに対面での国際会議が開催され、JTF としては翻訳および通訳のそれぞれの部会から１名ずつ総会に参加した。

通訳部会では、現在５年見直しの時期となり、今年発行したものでは ISO1765-1(通訳者のワーキング環境：固定式通訳ブース）や ISO1765-2（通訳者のワーキング環境：移動式通訳ブース）、ISO18841（通訳サービス：一般的要求と推奨）、ISO2019（同時通訳：機器）が、それぞれ発行した。現在、同時通訳機器、機材に関するものや手話通訳者向けの環境を整備するものまで進行中である。

【評価】JTF 内 ISO 検討委員会も 11 年目を迎え、報告と検討のプロセスは成熟している。生

成 AI の発展を受けて、業界に影響を与えうる国際標準規格の策定が開始された場合には、速やかに委員会内での検討ができる体制となっている。

【担当】
組織委員会部会 ISO 規格検討会
部会長：森口功造（JTF 専務理事）
部会委員：田嶌奈々（株式会社翻訳センター）、村下義男（JTF 理事）、山田優（立教大学）

<u>○通訳事業に関する講演会等の開催及び調査研究</u>
【実施実績】
第 1 回の翻訳セミナーに水野翻訳通訳研究所の水野的先生をお招きし、「新しい翻訳英文法～AI 翻訳時代を生き延びるために～」と題して、講演していただいた。水野氏は 1988 年より放送通訳者、会議通訳者として長年活躍され、そのご経験を生かして、日本の翻訳や訳読の歴史の中で、「訳し上げ」に対抗する形でご自身が主張されてきた「順送りの訳」（前から訳していく手法）を実践し、各大学でも長年、後進の指導もされてきました。セミナーでは、多くの英文事例を取り上げ、具体的な「順送りの訳」を実践していただき、多くの受講生にご参加いただいた。

【評価】
過去、それぞれの分野で活躍されている現役の通訳者を中心に講演いただく形式であったが、今回は元放送、会議通訳者で、現在は翻訳について深く研究されている水野先生に講演いただき、通訳者ならではの経験に裏打ちされた興味深い内容となり、大変好評を博した。

【担当】
組織委員会部会 通訳部会
部会長：村下義男（JTF 理事）

③広報委員会
【実施実績】
○JTFウェブサイトの企画・運営
ウェブサイトは、連盟のショールーム的な位置づけとして、主に会員管理やセミナー申し込み機能などを中心に提供している。インボイス制度の導入に伴い、適格事業者番号を含んだ帳票の発行が可能になるように改修した。イベントなどの新しい情報は、主にSNSやジャーナルを通じて発信しており、Instagramのアカウントも新たに作成し、そこから情報を積極的に発信をおこなった。
また、保守会社の母体変更に伴い、保守内容の契約を見直し、新しい契約を締結した。

○JTF Web ジャーナルの編集発行
2022年4月から新体制をスタートさせ、毎週滞りなく更新を行った。特に業界ニュースでは、ウェブの特性を生かし、常に最新情報を公開した。また、リレー連載では、「私の一冊」という内容で、記事を書いた人が次の記事を書く人を紹介するというリレー形式で好評連載中である。
特集では、翻訳業界の重鎮に登場してもらい、翻訳者になるまでのいきさつの連載や、JTF翻訳祭で好評だったセッションの紹介を行った。また、翻訳通訳に関する他団体との連携強化の一環として、JAT、JACI、AAMTと共同で行ったパネルディスカッションの紹介や、これら他団体の活動の紹介も行った。

○その他広報活動
「翻訳の日」を記念して、JAT、JACI、AAMTと共同でパネルディスカッションを主催した。これにより、業界全体の連携が強化された。翻訳祭の広報も実施し、SNSを活用したキャン

ペーンを展開した。

【評価】
セミナーの動画販売についてはあまり進めることができなかったため、引き続き検討したい。また、業界団体の連携についても今後も進めていく。

【担当】
委員長：石川弘美（JTF 理事）
委員：松元洋一（JTF 理事、JTF ジャーナル web 版編集長）、高須千代（編集）、手島千左子（ライター）
アドバイザー：松本佳月（翻訳者）

■5.翻訳事業に関する内外関連機関との連絡及び協調（定款第 4 条第 5 号関係）
【実施実績】
「翻訳の日」を記念した 4 団体トップによるパネル討論（日本翻訳者協会（JAT）、日本会議通訳者協会（JACI）、アジア太平洋機械翻訳協会（AAMT））を開催した。

【評価】
数年前に問題となった詐欺まがい翻訳学校と同様の事案があり、4 団体の連携により「被害にあわないために」という内容で声明文を出すことができた。今後も 4 団体の連携を推し進めて行く。

【担当】
組織委員会
委員長：安達久博（JTF 会長）
委員：高橋聡（JTF 副会長）、森口功造（JTF 専務理事）、安藤惣吉（JTF 常務理事）、石岡映子（JTF 常務理事）

■6.情報セキュリティに関する取組（定款第 4 条第 9 号関係）
【実施実績】
昨年同様に、引き続き事務局員のテレワークを実施し、セキュアな環境での事務局業務ならびに委員会活動、イベント運営等の円滑化に努めた。

【評価】
コロナ禍が季節性インフルエンザと同じ 5 類へ移行し、落ち着きつつあることを考慮し、対面での活動も増えることが予想されたが、事務局員　の安全確保と負荷の軽減の観点から、リモートワークの継続と対面活動とのバランスについて取り組んだ。

【担当】
組織委員会
委員長：安達久博（JTF 会長）
委員：各委員会委員長、JTF 事務局

会員数（2024 年 3 月 31 日現在）

	期首	期末
正会員　法人会員	201	184
正会員　個人会員	599	625
賛助会員	5	6
合　計	805	815